

令和3年度事業報告書

〔自 令和3(2021)年4月1日 至 令和4(2022)年3月31日〕

令和3年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症(以下「感染症」という。)の影響を大きく受けた1年でした。4月末から6月中旬まで、県より「第4波非常事態緊急対策」が発令され、8月下旬には国より「緊急事態宣言」が9月末まで発令されました。さらに新年早々から年度末まで県より「第6波非常事態宣言」が発令されるなど、世界中においても感染症が完全に収束することはできませんでした。

これらの影響を大きく受け、貸館の新規予約利用停止や貸館の予約キャンセル並びに当財団の最大の自主企画事業である「美濃陶芸作家展 2021」も開催直前に県からの要請により中止となりました。

当財団が運営協力をおこなっている「国際陶磁器フェスティバル美濃'21」は1年の延期を経て今年度実施いたしました。会期や規模を大幅に縮小しての開催となりました。

中長期保全計画に基づく施設全体の「空調機更新及び照明機器更新工事」は12月中旬から順次、着工されたため貸館利用可能日も制限されました。

また、当該工事に伴い令和3年11月8日から令和4年9月16日(予定)まで「岐阜県現代陶芸美術館」の長期休館も重なり、施設への来館者は大きく減少しました。

このようなコロナ禍の中、当財団は、感染拡大の防止を図りながら、19年目を迎えた「セラミックパークMINO」を活用し、「共創」の精神で、大変厳しい状況にある岐阜県東濃西部地域的美濃焼産業、文化及び観光の振興に努めました。

令和3年度は次代に繋げる地域振興の取組みとして民間主導で動き出した「セラミックバレー」構想にも当財団として積極的に参加し、各業界、団体と連携を図るべく活動を行いました。

また、令和2年度に引き続き、感染の拡大防止の取組みに万全を期し、国、県の感染防止対策に沿って可能な限りの事業を推進しました。

令和3年度の詳細な事業報告は、次のとおりです。

1 新型コロナウイルス感染防止対策の徹底

国・県の感染防止対策を基に「セラミックパークMINO新型コロナウイルス感染防止マニュアル」を整備しました。これに基づき事業を実施し、職員等にも感染防止の徹底を指導するとともに、施設利用者へも感染防止の徹底を呼びかけました。

県予算にて購入したパーテーション、非接触体温計、空気清浄機等、感染防止対策備品を貸館利用者に対して無料で貸し出す等、貸館施設利用者の感染予防に活用するとともに、催事主催者と感染防止対策について協議を実施しました。また、一定規模以上の催事開催にあたっては、県感染症対策調整課への事前相談を行う等、利用者支援を行いました。

主な対策は次のとおり。

- ① 館内の衛生消毒、換気対策等の徹底
- ② 来場者への施設内注意喚起掲示及び感染防止対策の要請
- ③ 貸館業務における利用制限、主催者への感染防止対策の要請
- ④ 作陶館、ショップ、レストランでの感染防止対策
- ⑤ 自主企画事業実施に係る感染防止対策
- ⑥ 財団職員の健康チェック
- ⑦ 貸館利用者への感染防止対策備品等の貸出

2 利用者サービス向上の取組み

来館者数推移

年 度	R3	R2	R1	H30	H29	H28
開館日数	359	359	360	359	359	359
来場者数	94,992	83,962	184,556	249,991	250,259	223,993
(内)美術館	28,078	29,406	24,912	68,413	32,283	30,115

感染症の影響により、令和2年度に続き例年より少ない来場者数となりましたが、来館者に親しまれ、リピーターとなっていただける施設づくりを進めるため、経営向上戦略会議において、課題を検討し、利用者へのサービス向上に努め、次のとおり来館者サービスを実施しました。

(1) 総合案内サービス（年末年始及び毎週月曜日を除く全日）

ショップスタッフが来館者に対し、館内の美術館、作陶館、開催されるイベント等の施設に関する案内やその他近隣の観光施設、食事処、地域イベントなどの情報を提供し、地域の観光やアフターコンベンションに関する案内を行いました。

公共交通機関でのアクセス方法の周知やバスの時刻表、施設までのタクシーの配車などの要望にも迅速に対応しました。

また、施設の見学希望があった際には、事務所スタッフと連携し、懇切丁寧な案内や説明に努めました。

(2) 利用者の意見の反映や苦情への対応

① 来館者アンケート

お客様の率直な意見を伺うため、施設内にアンケートボックスを設置しました。楽々市(あきんど市)開催時には特別にアンケートを実施し、アンケートの協力特典として抽選会を行いました。また、アンケート結果は、スタッフ全員で回覧し、施設運営、イベントの企画内容等の改善に活かすよう努めました。

施設内アンケート回収数 375枚

② 貸館施設利用者アンケート

すべての貸館利用者に対して、窓口でアンケート用紙を配付する形で実施しました。回収した意見、要望は日々確認を行い、設備・備品等の管理、補充、修繕など貸館業務にかかわる一切を万全の体制で臨むとともに、良好な施設利用環境の整備に努めました。

施設利用者アンケート回収数 118枚 (利用 198件 回収率: 59.6%)

③ 苦情・要望

ショップでインフォメーション業務を実施しました。担当者が伺ったお客様からのクレーム等を日報に記入し、職員全員が情報共有し、施設全体の改善に活用しました。

(3) 快適な施設環境の整備

来館者の快適な施設を創出するため、全職員が施設内の移動の際に注視し、施設環境の確認やお客様マナー向上などに努めました。

3 貸館施設稼働率向上の取組

令和3年4月26日から6月20日まで岐阜県から非常事態宣言が発令され、その後、国より3年8月20日から8月26日までまん延防止等重点措置、8月27日から9月30日まで緊急事態宣言、翌年1月21日～3月21日まではまん延防止等重点措置が発令されたため、発令期間中は新規貸館予約の停止や利用時間短縮の働きかけ、施設利用の自粛要請を行いました。

令和3年12月より国際会議場から順次、中長期保全計画に基づく「空気調和機更新及び照明機器更新工事」を順次実施したため、貸館の稼働日が大きく制限されました。

また、3年に1度開催される「国際陶磁器フェスティバル美濃'21」も昨年から延期され、本年に開催されましたが、まん延防止等重点措置の影響により、当初開催予定の令和3年9月17日スタートが9月30日からとなり、13日間の開催期間短縮。また、メインの「国際陶磁器展美濃」と「セラミックバレーと世界の陶磁器展～美濃焼とハンガリーの名窯ヘレンド～」2つの事業実施のみとなり、イベントホール、茶室、屋上広場の貸館施設が急遽、すべてキャンセルされる事態となりました。

感染症の影響により、民間主催の多数のイベントや会議等も急遽中止、開催見合わせ等のキャンセルが相次ぎ、令和3年度の施設の稼働率は、昨年同様すべての施設で当初の目標値を大幅に下回りました。

このように大変厳しい状況下でありながら、利用者に対して、当施設の感染防止対策を周知しながら、次のように、稼働率向上に向けた取組みを行いました。

ア 賛助会員として加盟している「公益財団法人名古屋観光コンベンションビューロー」に対し、毎月、会員向け媒体での貸館広告掲載を行いました。

イ 貸館施設の予約については、県有施設予約システムを利用し、スムーズで正確な貸館空き情報の提供を行いました。当面、利用申し込みは、電話、メール等による受付とし、利用受付にあたっては従来と同様にお客様の利用内容や規模に合わせた丁寧な対応を行いました。また、仮申し込みと日程が重なった際は速やかに双方に連絡、調整を行い、本決定を取り逃さないよう努めました。併せて条例施行規則や利用料金規程に基づく適正な管理、適切な使用についての周知を図りました。

ウ 新規の施設利用者に対し、施設の利用支援業務の需要を把握するとともに、次のとおり利用形態に応じたきめ細かな利用支援を行い、今後の継続利用に結びつくよう努め、施設の稼働率、収益性、集客力の向上を目指しました。

- ・[開催前における必要経費、備品の確認、搬入・設営の段取りの支援]
- ・[設営時、撤去時における財団職員等立会による支援]
- ・[チェックシートによる備品等の利用希望記録及び確認の実施]

エ 貸館施設の利用希望者には、要望に応じて随時館内を案内するなど、懇切丁寧な説明を心掛けました。

オ 陶磁器産業の振興等を目的とした展示ホール及び国際会議場の利用者には、減免制度の周知を図りました。

カ 感染防止対策として、入場者数の制限や、ソーシャルディスタンスの確保、対面を避

けるレイアウト等、催事主催者と綿密に確実な打合せを実施。大規模催事開催にあたっての県感染症対策調整課への事前相談等、開催支援を行いました。
キ 机や椅子等、貸出備品は貸館利用後に消毒を実施し、非接触体温計や送風機等の感染対策用備品の無料貸与も行う等、感染防止対策を徹底しました。

■貸館稼働率

上記要因に伴い、本年度も稼働率は低迷したため稼働実績は次のとおりとなりました。

[令和3年度貸館稼働率]

施設名	令和3年度 目標稼働率	令和3年度 実績	令和2年度 実績	平成元年度 実績	平成30年度 実績
展示ホール	60 %	43.7 %	22.8 %	49.7 %	36.8 %
国際会議場	40 %	31.5 %	31.2 %	30.6 %	33.1 %
イベントホール	50 %	22.0 %	18.9 %	36.4 %	36.2 %
小会議室	60 %	36.2 %	18.9 %	44.7 %	40.4 %
茶室	30 %	6.7 %	5.0 %	8.1 %	12.5 %
屋上広場	20 %	6.7 %	8.4 %	10.6 %	21.7 %

4 セラミックパークMINO作陶館の運営

休業要請を受け感染防止のため、令和3年4月26日から6月20日まで及び8月20日～9月30日まで新規予約停止措置を行いました。また令和4年2月1日～3月3日までも新規予約停止措置を行いました。

作陶館のスタッフ不足もあり通常運営が困難なため、前年と比べ、作陶館利用者は減少しましたが、幅広い層の来館者に陶芸文化の素晴らしさを伝える作陶体験施設の運営を推進しました。

(1) 作陶、上絵付け体験

毎週金・土・日は、作陶体験の希望者が気軽に参加できる作陶、上絵付けの4種類の体験コースを引き続き実施しました。また、スタッフの弾力的な人員配置により、積極的に団体客の受け入れに対応しました。

① 体験の種類

- A：上絵付けコース → 転写シートを切り貼りして楽しく簡単に絵付け体験
- B：作陶2コース → ロクロまたはタタラで粘土を器の形にするまでの初級者体験
- C：作陶1フルコース → 上記Bコースをより本格的に2～3回に分けて行う体験

② 体験の人数

全体総数：808人（目標人数：2,500人）

内訳

- Aコース 124人（前年度731人）
- Bコース 654人（前年度590人）

Cコース 30人（前年度 39人）

- ※4月26日から6月20日第4波非常事態緊急対策で事実上受け入れ停止
- ※8月20日から9月30日まん延防止等重点措置等で事実上受け入れ停止
- ※1月から3月はスタッフ不足により受付を制限
- ※2月1日～3月7日新規予約停止

(2) 陶芸講座

毎週火・水・木を中心に、じっくり陶芸に取り組みたい方陶芸の経験者を対象に伝統工芸士を講師に迎え、少人数できめ細かい指導を行う年間講座を開設しました。なお、作陶館休止中の講座分は日程変更のうえ実施しました。

[年間講座]

- ・毎週火・水・木の各午前・午後 計6講座
- ・1講座当たり定員4から7人 計32人
- ・1講座 前年度継続分7月まで11回
10月から翌年7月まで35回
- ・作品展（2日間） 9月26日、27日開催

(3) その他

「四季のワークショップ」や各地のお祭りへ出向く出張作陶体験、「国際陶磁器フェスティバル美濃'21」開催期間中に実施を予定していた特別講座は、感染症の影響により、すべて実施できませんでした。

5 自主企画事業の実施及び地場産業の振興に向けた取り組み

セラミックパークMINOの主たる設置目的である陶磁器産業・文化及び観光の振興をテーマとした事業を中心に実施しています。

令和3年度の自主企画事業等は、次の通り企画立案および開催実施しました。

(1) 美濃 陶芸作家展 2021

開催を中止としました。

【中止理由】

毎年GWに開催する当財団のメイン事業である「美濃 陶芸作家展 2021」は感染防止対策を万全に施し、すべての開催準備を整え、残りは会場設営、作家の作品搬入を行うのみという状態でしたが、4月26日に県より発令された「第4波非常事態緊急対策」により急遽、県の要請もあり開催中止としました。

2年連続での中止となり、出展作家をはじめ取引業者にも多大なご迷惑をおかけすることとなりました。

昨年度は代替事業として「セラミックパークフェス」を令和2年10月10日に開催したため、本年度も「秋の美濃 陶芸作家展」と題し、代替事業を企画しましたが、令和3年夏ごろから感染症の拡大が再び広がりだし、落ち着きを見せることが無かったため、本年は代替事業の開催をすべて断念しました。

(2) 美濃焼インキュベーション事業

美濃焼のブランド価値の向上と需要創造など、産業振興を目的に以下の事業を実施しました。

① 美濃焼のブランディングに効果的な異業種とのコラボレーションとして、レクサスブランドとのコラボレーション事業を実施しました。

ア レクサス販売店で配布するライフスタイルカタログ「レクサスコレクション」に掲載商品を提案しました。

(掲載実績 2021 秋冬版：7社11 アイテム、2022 春夏版：8社11 アイテム)

イ レクサスと美濃焼の匠とのコラボレーションとして紹介され、クリエイターが集まる美濃焼の産地“セラミックバレー”として、地域及び参加企業のブランドイメージの向上に貢献しました。

②地域における「セラミックバレー」の普及のために、以下の事業を実施しました。

ア 商標使用の希望者に対して、使用申請の受付と使用内容のチェックを行い、商標イメージの順守に努めました。(相談件数33件)

イ セラミックバレー協議会の事業計画に参画し、事業の実施や組織運営に協力しました。

ウ 公式WEBサイト、SNSの管理、運営を行い、情報発信に努めました。

(3) セラパーク楽々市

※『セラパーク楽々市』は、「あきんど市」(財団主催)、「青空マルシェ」(財団主催)、「骨董フェスタ」(民間主催)の総称。

定期開催事業として、施設稼働率の向上及び施設のにぎわい創出に加え、陶磁器産業やその他の地元小売業等の出店による地域活性化を目的として、平成16年から継続開催中の事業です。出展者で運営委員会を組織し、財団も加わり、運営しています。

平成16年8月からの継続的な開催実績を活かしながら、構成催事である「骨董フェスタ」(民間主催)との更なる連携を図り、集客増加に努めました。

「あきんど市」「青空マルシェ」「骨董フェスタ」に加え「森の観察会」など家族3世代で楽しめる企画として活性化を図りました。

今年度の楽々市は、感染症の拡大により、5月、6月、1月、2月は、開催を中止しました。

なお、「国際陶磁器フェスティバル美濃'21」開催の為、9月、10月は未実施となりました。

※1. 通常、毎月第4日曜日と前日の土曜日開催(年間12回)

※2. 「青空マルシェ」は12月より翌2月まで冬季休止

①「あきんど市」

出店者が構成する運営委員会と連携を図り、意見交換を行い、より本催事の価値を高め、魅力的な企画内容を目指しました。

企画継続実績が約18年となる同運営については、出店者による自主的な運営を目指すため顧問、運営委員長と連携を図りました。

なお、ミニワークショップや“周年記念祭”(1年に一度開催)の開催は感染防止のため中止としました。

②「青空マルシェ」

地元の採れたての野菜や手作り惣菜を中心とする対人型イベントとして開催しました。

※中止月は「あきんど市」同様。ただし1月、2月は冬季休止

③ 森の観察会

敷地内の自然環境を生かし、施設の魅力向上を目的に、親子で参加できる自然観察会を開催しました。散策路やシデコブシの自生地を散策しながら、樹木の観察や昆虫採集、小鳥の巣箱づくりなど行いました。(3回開催)

④ その他

楽々市の一環として小会議室にて日曜日のヨガ教室やボードゲームなどのミニ講座を充実させ、更なる集客を図りました。

(4) 地域の陶磁器産業界及び陶芸界との連携

美濃焼インキュベーション事業の実施、「国際陶磁器フェスティバル美濃'21」への参画を通じて、美濃焼産業界との連携を深めました。

また、セラミックパークMINOの稼働率や魅力向上を目的に、県、多治見市、瑞浪市及び土岐市の各自治体や陶磁器関係団体と密な情報交換等の連携を図りました。

(5) 施設としての魅力創造

多様な魅力を備えた施設を最大限に活用し、来館者の増大につなげるため以下の取り組みを実施しました。

① 回廊及びエントランスを魅せる空間として活用

ア エントランスでは、美濃焼に関する催事、周辺施設の施設案内や催事情報に関する各種パンフレットやチラシ等を常置し、回廊壁面ではポスター掲示により、地域文化、産業、観光の情報発信の場として活用。

イ アルコープにおいて、国際陶磁器フェスティバル美濃の受賞作品や美濃焼の展示を行い、リピーターの来館者にとっても魅力的な空間を演出。

② 自然観察会の開催及び里山の整備

ア 希少植物“シデコブシ”など、施設をとりまく恵まれた自然環境を保全し、地域の自然を体感できる「里山憩いゾーン」の整備を継続し、幅広い層への啓発を実施。

イ 親子参加を対象とした自然観察会「森の観察会」を実施し、昆虫採集体験など、楽しんで参加できる体験ツアーを4月、7月、11月に実施。

※未実施の月は感染症の影響や国際陶磁器フェスティバル美濃'21開催月および天候不良の為中止。

ウ 敷地内の環境調査や「森の観察会」の企画運営の補佐を行うボランティア組織として「セラパーク自然観察会」を運営。

(6) 「セラパークあそび隊」事業の実施

“みんなが楽しくあそべるセラミックパークMINO”を目指して、岐阜県森林文化アカデミー、岐阜県現代陶芸美術館、当財団の3者が協力して、施設の内外に親子で遊ぶことができる場所を設け、自然とアートに触れる体験事業を開催しました。

(3回実施：4月、7月、11月)

(7) 岐阜県現代陶芸美術館との連携

作陶体験施設の集客を促進する観光施設として、また、県民への陶芸美術の涵養と陶磁器産業の振興に資するため、岐阜県現代陶芸美術館(以下「美術館」と連携を図

りました。

- ① 毎月1回、施設全体の運営上の改善を図るため、意見交換会を開催。
- ② 美術館の運営諮問機関である美術館協議会委員として、セラミックパークMI NOの活用を促進。

(8) 施設開館20周年記念事業の開催準備

令和4年度に20周年を迎えるにあたり、本年度は記念事業の準備を行いました。美術館と連携協議の結果、令和4年11月下旬を開催予定日として今後も引き続き、内容について相互協議を定期的実施してまいります。

6 広報に関する取組みについて

施設の知名度向上、自主企画事業の集客を目的として3市を中心として広報展開を行いました。また、記事での広報展開を重要視し、メディアへのプレスリリースを適宜、行いました。

(1) 自主企画事業等の開催に向けた広報

自主企画事業やショップでの展示企画の際は、新聞社、県、3市の広報への情報提供をこまめに実施しました。また、地元フリーペーパー等の媒体を積極的に活用しました。

(2) ホームページ、SNSの活用

ホームページにおいては、一般の方にわかりやすく、かつ、常に最新の情報を提供できるよう努めました。また、SNSの発行も組み合わせて、費用を抑えながらも相乗的なPRに努めました。

7 ショップ&ギャラリーMI-NOの運営

当財団の自主事業として、美濃焼産業発展に寄与するため地元作家等の陶磁器販売、県産品の販売を行い、施設の活性化を図り来館者にとって多様な魅力を備えた施設としました。

本年度は8月23日から9月30日まで感染防止のため休業しました。10月1日より国際陶磁器フェスティバル美濃'21開催に合わせ営業再開。感染症の影響により1月より時短営業。3月22日から30日は照明工事の為、休業しました。

(1) ショップ&ギャラリーMI-NO 来客数及び売上の推移

年 度	R3	R2	R1	H30	H29	H28
営業日数	270	251	309	315	306	306
来 客 数	3,919	4,426	5,173	7,833	6,998	5,732
売 上 額	10,456,553	12,139,751	13,126,133	17,134,859	20,381,482	13,811,457
レクサス	12,153,537	6,042,465	9,257,092	7,059,899	4,107,790	3,338,212

(2) 売り上げの向上の取組み

- ① ディスプレイには、四季折々の変化と行事を取り入れ、常に食卓目線のコーディネートを実施。
- ② 商品クオリティーの向上。

- ③ ギャラリーコーナーでは陶芸家、木工、ガラスなどのクラフト作家による展示や職員のセレクトしたテーマ展示などの企画展を実施。
- ④ 陶磁器のみならず地元で活動している作り手の異素材のクラフト作品等の展示販売を実施。
- ⑤ 接客はお客様への声掛けを基本とし、安心して買い物ができる雰囲気を創出。
- ⑥ 陶磁器産地ならではの魅力的な品揃え。

(3) 接遇改善

お客様に対して、器の使い方や美濃焼の説明等ができるよう、定期的にスタッフ研修を実施しました。

(4) 調査・広報

- ① 新作の動向を調査。
- ② インターネット、SNSを活用した販売促進活動を実施。

8 飲食施設の委託運営事業の実施

飲食施設は、美術館と貸館施設を擁する施設にとって、来館者のために必要な施設です。現在の飲食施設は、令和元年8月1日よりダイドーキッチンと委託契約を締結し、より良いサービスを提供するため、施設利用者情報の提供及び情報交換を継続的に行って来ました。しかしながら、昨年度に引き続き、感染症の影響で来館者の激減、令和3年度は11月8日からの美術館休館、全館工事も重なり通常営業が出来ない状況となりました。

そこで、県と協議の上、土日、祝日など、イベント予約が入り、飲食施設の利用を見込むことができる場合のみの営業としました。美術館運営再開後(令和4年9月17日(予定))には通常営業に戻る予定です。

9 施設の維持管理に関する業務

開館から19年を経過し、施設の破損や経年による劣化が進んでいますが、お客様の「安全・安心・快適」な環境整備を第一に、日常・定期点検の確実な実施とともに、軽微な修繕等は迅速な対応を心掛けました。また、中長期保全計画に基づく(空調更新、照明更新)の施工に際しては、綿密な打ち合せ、調整を行いました。

さらに、感染防止のため、日常清掃においては消毒作業等を強化し、机・椅子等貸館用備品の消毒作業を実施するとともに、館内各所に消毒液や非接触体温計を設置し、来館者へ注意喚起を行う等、万全の予防対策を実施しました。

(1) 施設の安全確認

職員による施設巡視を徹底し、目視による日々の施設の安全確認を行いました。更に、発見した不具合等は、必要な対策を、スピード感をもって実行しました。

(2) 施設の清掃業務

館内清掃は、原則清掃員3名を配置させ、日常清掃を実施しました。

特に、トイレについては、常に清潔な状態を保つよう心がけました。

また、定期清掃として、フローリング床のワックスがけやガラス清掃などを次のとお

り実施しました。

[定期清掃]

業務内容	実施回数	実施月
木床洗浄ワックス塗布	4回/年	5月、8月、11月、3月
大理石洗浄	3回/年	5月、10月、3月
カーペット洗浄	2回/年	8月、3月
ガラス清掃	2回/年	9月、3月

緑地管理業務は、シルバー人材センターを活用し、施設の玄関口である駐車場その他敷地内の清掃、樹木管理、草刈り及び敷地内里山の下刈り等の管理を実施しました。

(3) 施設の警備体制

警備員1名を常駐させ、24時間体制で警備を行いました。

昼間は、施設内巡回を中心とし、夜間は、監視カメラ、中央監視装置などを活用した機械警備を実施しました。

緊急通報があった場合には、迅速に現場確認を行うなど、適正な警備体制で臨みました。

(4) 環境衛生管理業務

「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」に基づき、適切な管理を次のとおり実施しました。

[環境衛生点検等]

業 務	実施回数	実施月	
空気環境測定	1回/2か月	奇数月	
飲料水検査	残留塩素測定	1回/週	毎週
	定期水質検査	1回/6か月	8月、2月
	特例水質検査	1回/年	8月
雑用水水質検査	残留塩素、ph値、臭気、外観	1回/週	毎週
	大腸菌、濁度	1回/2か月	偶数月
貯水槽清掃点検	1回/年	12月	
汚水槽清掃点検	1回/6か月	4月、12月	
ねずみ・害虫駆除	6か月以内に1回	9月、3月	
病虫害防除	必要に応じて随時	随時	

(5) 設備の保守管理

原則、設備員2名を配置させ、施設内の空調、機械設備及び電気設備の日常的、定期的な点検管理を実施しました。

故障の未然防止、故障時の早期対応に努め、年間を通じて法令上必要な有資格者による点検等を行いました。

また、下記の設備機器については、各機器の保守管理に万全を期しました。

[設備点検等]

点検内容	実施時期	点検回数	実施月
氷蓄熱ヒートポンプ保守点検	冷房開始前	1回/年	7月
	冷房期間中	1回/年	10月
吸収式冷温水発生機保守点検	冷房開始前	1回/年	5月
	冷房期間中	1回/年	7月
	冷房期間後	1回/年	10月
	暖房開始前	1回/年	10月
	暖房期間中	1回/年	1月
	暖房期間後	1回/年	5月
自動制御機器・中央監視装置定期点検		2回/年	9月、3月
消防防災設備保守点検	防火対象物点検	1回/年	1月
	機器点検・総合点検	1回/年	1月
自動ドア等保守点検		3回/年	5月、9月、1月
昇降設備保守点検		1回/月	毎月
吊物・床機構保守点検		2回/年	7月、1月
高圧受変電設備保守点検		1回/月	毎月
建築基準法第12条点検	建築物・建築設備	1回/年	3月
	昇降機等	1回/年	7月
	防火設備	1回/年	3月

(6) 維持管理経費の節減に向けた取り組み

19年目を迎え、近年、経年劣化に伴う修繕費が増大しています。

設備保守点検などの外部委託費、電気・ガス、水道、清掃用具等の消耗品費などの維持管理経費節減の取り組みを以下のとおり行いました。

- ① 電気・ガス等は、館内空調の温度管理（夏期28度、冬期20度、美術館を除く）の徹底、館内照明の間引き点灯、部分消灯の徹底等により節減に努めました。
- ② 外部委託費の内、契約期間を長期契約にできるものについては、長期契約を実施し、委託料の節減及び事務手続きの削減に努めました。
- ③ 消耗品は、計画的なまとめ買いを心掛け、費用の削減に努めました。

(7) 施設・設備の修繕及び中長期保全計画

- ① 利用者の安全、安心を確保するため、施設・設備の点検等により不具合の早期発見に努め、また、修繕・更新を計画的に実施しました。
- ② 中長期保全計画を策定し、継続的に状況把握し、県へ適切に報告しました。随時計画を見直すことにより、財政負担を軽減し効率的な施設保全に努めました。

10 危機管理体制の整備

来場者の安全確保を図るため、財団職員は普段から危機意識を持ち、関係各機関との連携強化を図り、有事の際に的確かつ迅速な対応のできる体制を目指しました。

- ① 「セラミックパークMINO危機管理規程」に基づき、地震、火災、不審者の侵入、不審物の発見などあらゆる自然災害、事件・事故への対応方法を、職員等に周知徹底しました。火災避難訓練については、今までの訓練を見直し、より実践的な訓練を美術館職員との合同で2回実施しました。
- ② 当館には、不特定多数の来場者が見込まれることから、新型コロナウイルス感染防止対策のため、各所に消毒液を設置しました。
- ③ 業務全般に係る情報処理セキュリティー対策や個人情報保護などに万全の体制を期しました。
- ④ 万一の事故等に対応するための保険に加入しました。

11 その他

(1) 理事会・評議員会等の開催

財団の事業計画及び予算、事業報告及び決算、各種規程の改正等、財団運営の基本的事項について、理事会、評議員会、監事監査を開催、法令に基づいた適切な運営を行いました。なお、理事会・評議員会はすべてコロナ感染防止のため決議の省略による書面表決となりました。

理事会	5月13日	令和3年第2回	決議の省略：評議員会の開催（役員改選）
	6月8日	令和3年第3回	決議の省略：令和2年度事業報告・収支決算
	6月15日	令和3年第4回	決議の省略：理事長等の選定
	3月14日	令和4年第1回	決議の省略：令和4年度事業計画と収支予算
評議員会	5月17日	令和3年第2回	決議の省略：役員改選
	6月15日	令和3年第3回	決議の省略：令和2年度事業報告・収支決算
	3月18日	令和4年第1回	決議の省略：令和4年度事業計画と収支予算

(2) 「国際陶磁器フェスティバル美濃'21」の開催協力

本年度は、コロナ禍により1年延期された「国際陶磁器フェスティバル美濃'21」の開催に伴い、その事務局に参加し、企画から実施までその一部の業務を担当しました。

(3) 利用促進協議会の運営

貸館施設の稼働率向上に向けた取り組みを力強く推進するために、岐阜県、多治見市、瑞浪市及び土岐市の各自治体や商工会議所、陶磁器関係団体からなる「利用促進協議会」を運営しました。また、併せて自治体、関係団体への積極的利用の働きかけを行いました。

開催日 令和3年11月16日

内容 ・令和3年度上半期事業報告について

(4) 適正な財団運営の推進

県有施設の指定管理者、県及び3市の財政援助団体であることに鑑み、会計処理、備品管理、個人情報の取扱いなど、日々の業務における必要な関係法令、諸規程等についての職員研修を実施し、職員の資質向上を図り、適正な財団運営を行いました。

また、公益財団法人としての事業運営、会計処理について法令等に沿って運営するよう適正な処理に努めました。